

目次

根岸庵を訪ふ記	一
東上記	一〇
半日ある記	二五
星	三一
祭	三二
車	三五
窮理日記	三八
鳴つき	四〇
高知がへり	四四

先生への通信	一四八
物理學の應用に就て	一六九
方則に就て	一七五
知と疑	一九〇
物質とエネルギー	一九四
科學上に於ける權威の價值と弊害	二〇三
科學者と藝術家	二一二
自然現象の豫報	二二四
時の觀念とエントロピー並にプロバビリテイ	二四四
物理學と感覺	二五二
瀬戸内海の潮と潮流	二六六
物理學實驗の教授に就て	二七〇

小さな出来事	四一一
鸚鵡のイズム	四三九
帝展を見ざるの記	四四四
浅草紙	四五八
芝刈	四六五
球根	四八三
春寒	四九六
文學の中の科學的要素	五〇三
凍雨と雨氷	五一三
漫畫と科學	五一七
旅日記から	五二五
厄年と etc.	五七一

夏の小半日	二七九
津田青楓君の畫と南畫の藝術的價値	二八四
研究的態度の養成	三〇四
戦争と氣象學	三〇九
蛙の鳴聲	三一三
科學上の骨董趣味と溫故知新	三一四
病中記	三二〇
病院の夜明けの物音	三二七
病室の花	三三三
電車と風呂	三四五
丸善と三越	三五四
自畫像	三八〇

